

氏名	中 村 達
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 乙 第 2748 号
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	高齢者白血病の治療に関する研究
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高齢者白血病の至適治療体系の確立を目的とし、70歳以上ANLLを対象にACR単独を試みその臨床効果を検討した。対象はANLL 20例〔男女比 16：4，年齢 70～84歳（中央値76歳），未治療例 19例，初回導入不能例 1例〕で，病型はM1：5例，M2：3例，M4：5例，M5：6例，M6：1例で，うち2例はhypoplastic leukemiaであった。ACRは，14mg/m²/日，2時間の点滴静注で原則的に7～10日間の連日投与を行い，末梢血及び骨髓所見により適宜2コース目を施行した。その結果，完全寛解（CR）は，20例中8例，40％に得られたが，病型別検討ではM1：20％，M2：0％，M4：60％，M5：67％，M6：0％とM4，M5症例に高い奏効率が得られた。CR持続期間，CR症例の生存期間，全症例の生存期間は中央値で7.3ヵ月，11.8ヵ月，1.9ヵ月であった。副作用は消化器症状が20例中11例と高頻度に，合併症は感染症が20例中14例，消化管出血が3例に認められた。70歳以上高齢者ANLL，特にM4，M5症例に対するACR単独療法は評価し得る治療法と考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は高齢者白血病の至適治療体系の確立を目的とし，70歳以上のacute non-lymphocytic leukemia (ANLL)を対象にaclorubicin (ACR)単独を試みその臨床効果を検討したものである。その結果，完全寛解は20例中8例，40％に得られたが，病型別検討ではM1：20％，M2：0％，M4：60％，M5：67％，M6：0％とM4，M5症例に高い

奏効率が得られた。70歳以上高齢者ANLL，特にM4，M5症例に対するACR単独療法は評価し得る治療法であるという結論を得た。これは価値ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。